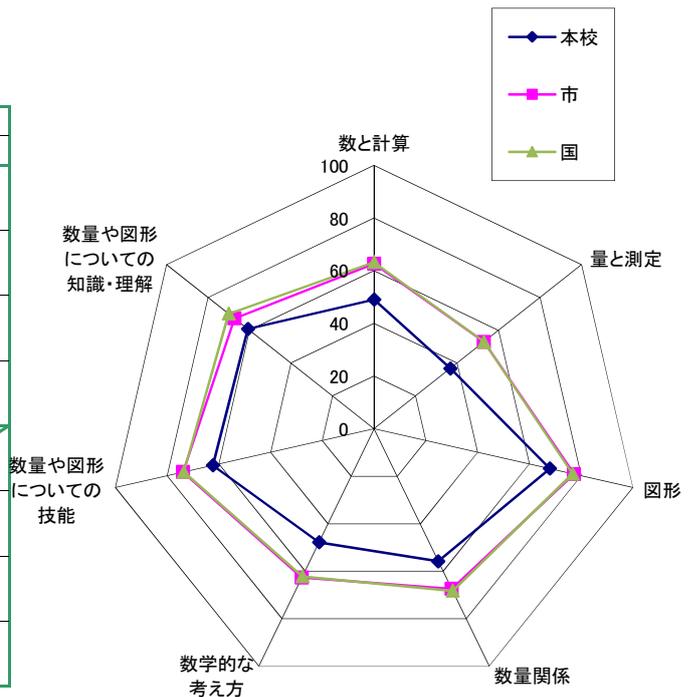


宇都宮市立宝木小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	49.1	62.7	63.2
	量と測定	36.8	52.9	52.9
	図形	67.9	77.3	76.7
	数量関係	55.8	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	47.8	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	62.3	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	60.8	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>本校の平均正答率は全国平均と比べると低い。</p> <p>○示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、ふさわしい数値の組み合わせを答える問題は他の問題と比較すると正答率が高い。</p> <p>●棒グラフの結果をもとに、何倍になったかを解答する問題の正答率は57.5%と、全国の平均より21.1ポイント低い。</p>	<p>・もとにする量と比較して何倍になるかを求める問題の理解が不十分であるので、図を用いて視覚的に捉えさせるなどの工夫をすることで、もとにする量がどれになるのか選択できるようにする。</p>
量と測定	<p>本校の平均正答率は全国平均と比べると低い。</p> <p>○場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述する問題は、他の問題と比べると正答率が高い。</p> <p>●示された形の面積をどのように求めているのかについての説明する問題の正答率は25.5%と、全国の平均より18.4ポイント低い。また、無解答も多く見られた。</p>	<p>・長方形などの図形の面積を求める公式は定着しているが、その公式を活用して他の図形の面積を求めることについては定着していない。また、無回答率も高いことから記述式の問題が苦手であることがわかる。今後は、公式を使って解いていく問題を取り入れたり、言葉や文章で説明する機会を増やすような学習形態を取り入れたりする工夫をしていく。</p>
図形	<p>本校の平均正答率は全国平均と比べると低い。</p> <p>○長方形を直線で切った図形の中から台形を選ぶ問題では、正答率が高く、無回答率も0%となった。</p> <p>●合同な2つの台形を使ってできる、別の図形を選択する問題の正答率は50.0%と、全国の平均より10.3ポイント低い。</p>	<p>・図形の基礎的な内容は定着しているが、活用する問題には課題が見られる。実際に図形を動かすなどの体験的な活動を取り入れたり、基本的な知識を活用して解く問題に取り組ませたりするなどの工夫をしていく。</p>
数量関係	<p>本校の平均正答率は全国平均と比べると低い。</p> <p>○棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、正しいものを選択する問題の正答率は全国の平均より2.7ポイント低いが、9割を超えている。</p> <p>●二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選択し、選んだ理由を記述して解答する問題の正答率は33%と、全国の平均より19.1ポイント低い。</p>	<p>・割合の問題の定着が不十分であるので、「もとにする量」「比べられる量」について丁寧に示していく。</p> <p>・他教科でも円グラフや帯グラフなどから割合を読み取り、比較量を求める問題に触れさせ、定着を図るようにする。</p>